

【学生による ESD 支援活動】

奈良市立済美小学校 野外活動 支援報告書

数学教育専修 1 回生 取違 隆馬

1. 実施日 平成 30 年 6 月 27 日 (水)
2. 場 所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 奈良市立済美小学校 第 5 学年児童 66 名、引率教員 2 名他
谷垣徹・伊藤拓海 (大学院)
丸本まりな・仲村幸奈・櫛乃里花・取違隆馬・後藤旭 (学部生)
4. 活動支援内容

平成 30 年 6 月 27 日～28 日、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立済美小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 7 名がその支援に当たった。一泊二日のうちの 1 日目に行われたオリエンテーリング及び野外炊飯、キャンプファイヤーの活動支援を行った。当日は晴天に恵まれ、足を怪我した子どもなどはいたものの、無事に終えることができた。

この活動支援で学んだことは主に 2 つある。事前の下調べの大切さについてと、子どもとのコミュニケーションについてである。

一つ目は、事前の下調べの大切さについてである。オリエンテーリングの際、山道で最後尾の子どもたちについていったのだが、道の長さを知らなかったため、途中で私も含め全員の水分が尽き、出口にたどり着く頃にはふらふらする子どもが出てきた。また、野外炊飯において、火のおこし方を知らなかったために上手く火をおこせなくて調理にかなり手間取った班があった。これらに共通して言えるのは、予め活動支援内容に関する下調べが足りなかったために当日苦労したということである。野外活動の大変さを感じると同時に、これからの活動において気を引き締められるいい機会となった。

二つ目は、子どもとのコミュニケーションについてである。私は今回が初めての野外活動支援ということもあり、とても緊張していた。そのため、行きバスではあまり積極的に声をかけることができなかった。しかし、オリエンテーリングで子どもたちの踊りを見て、それに点数をつけるという役割を与えていただき、その後の活動の際に、子どもたちに踊りの点数に対する喜びや文句を言われているうちに色々なことを話しかけてくれる子どもが増えた。とても嬉しかったが、同時にきっかけとなる話題がなければ子どもたちに話しかけることが簡単にはできない自分の未熟さも実感した。子どもとのコミュニケーションの大切さ、そして子どもたちと関わる魅力を感じることができた。

この野外活動では教師を目指す立場としても、人間としても必要なことを多く学び、充実した 1 日となった。今後も野外活動支援に参加し、様々なことに取り組みながら、学びを深めていきたい。



オリエンテーリングの様子